

	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
4	再発見！釜川が変えるまちづくり ～コミュニティ・リバーを目指して～	宇都宮共和大学 都市・アメニティ研究会	
		佐々木 賢太	宇都宮共和大学 シティライフ学部
		指導教員 氏 名	山島 哲夫

## 1. 提案の要旨

宇都宮市には釜川という一級河川が存在する。しかし後述するように、市内の住民・市外からの観光客を問わずまちの資源としての認知度が低いのが現状である。我々はそこに着目した。どのようにすれば釜川をまちの資源として有効活用できるかについて考えてみた。軸となるのは「川を発見する・知る」「川に近づく・親しむ」「川で楽しむ・憩う」の3つ提案であり、そこにさらに細かい具体的な提案を盛り込んだ。

## 2. 提案の目標

全国的に見ても、中心市街地を流れる川で釜川のように複雑な構造を持ち、様々な工夫がなされている川の存在は珍しい。

ここで釜川について簡単に説明する。

釜川は宇都宮市野沢町の東西弁天沼を水源とし、中心市街地を通り中河原町で田川に合流する延長 7.3km の一級河川である。昭和の後半から上流地域の開発が進み、流出水量の増加による氾濫の多発や生活排水の流入による河川環境の悪化が急速に進行した。そこで昭和 49 年度以降、宇都宮市が本格改修事業に着手し、釜川放水路、パイパス下水道の建設、2 層構造化事業( 図 1 )、水辺環境整備などを行い現在に至っている。特に中心市街地部分の 1.9km は「釜川プロムナード」という散策コースのひとつになっている。

釜川プロムナードは、中心市街地の只中であって、楽しく歩くことを可能にする貴重な資源である。今回の提案は、この釜川プロムナードに関して、人々の意識を変えとともに、多くの人に親しめる川とするための方策を考え、シティセールスの材料となるまちの資源( まちの誇り ) にしていこうというものである。

このため、長い年月を要するかもしれないが、最終的には「宇都宮といえば釜川」といわれるほどの川に釜川の魅力を増大させていこうというのが今回の提案の目標である。



図 1 2 層構造部分の断面図